広報 くろつち 12
昭和六十二年三月一日発行（毎月一日発行）
三七号 発行／黒埼町役場 〒950-21 新潟県西蒲原郡黒埼町大野六四二一
電話／025(382)2111(代表) 編集／企画開発課（担当・広報統計係） 印刷／三菱館株式会社 経費一部六円

人● 鏡の世界があれば…

金子敏美（かねこ としみ）さん 三十八歳 上山田

鏡を見る。右と左が逆の自分がいる。鏡の世界というもう一つの世界があれば、そこでこの人は何をしているのだろうか。そんなことを考えさせる金子敏美さんである。

さて、こちらの世界の金子敏美さんである。県警交通機動隊員である。その傍ら、公民館の版画教室の講師をしている。

「どちらも好き」と言う金子さんは、高校を卒業後、美術大学を受験した。

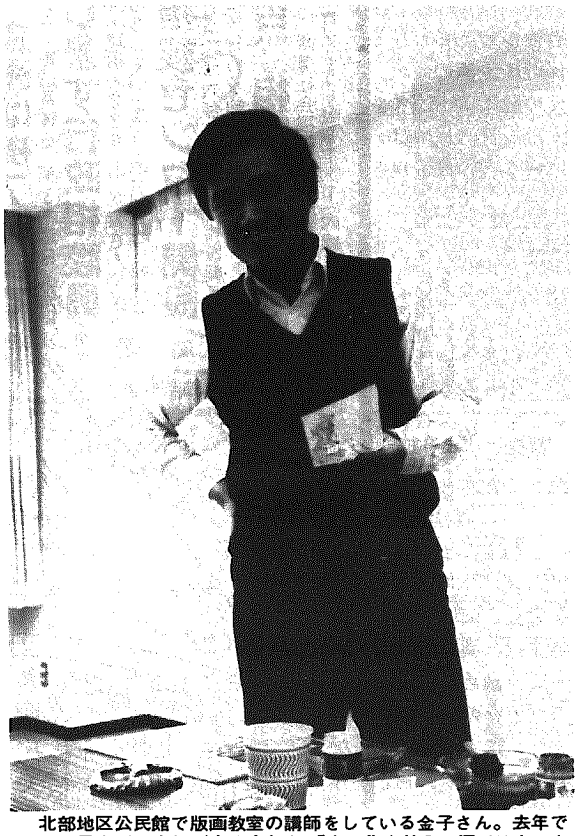
「だめなら警察官に」。警察官になった。が、それも希望する職業だった。

「今は言うことがない」くらい職務を愛している。

それに、新潟県警にとってはだめどころではなかった。金子さんの才能は十分に発揮された。警察関係のポスター、看板、チラシをはじめ、昨年出来た警察旗のデザインも金子さんの作である。「全職員からの公募でしたから、まさか採用されるとは。一生の記念です」と少し誇らし気だ。

旗のデザインは締め切り寸前一日で描きあげたという。「熱中するタイプなんですね。始めたら一気に。油絵も一時描きまくった時期がありました。その前はオーディオに凝ったり、今はモトクロスに狂っています」

そして、頼まれるとイヤと言えないタイプのようだ。油絵は欲しいと言う人に、処女作を残して全部上げてしまった。版画教室もその才能と性格が「災いして」休暇をとって無償で講師をしている。



北部地区公民館で版画教室の講師をしている金子さん。去年でやめる予定が、人気が高く今年も。「人に作を教える柄ではないんですよ。でも、期待されたり、喜ばれると、イヤと言えなくて」。なお「熱狂的な阪神ファンと書いてくれ」とのこと。写真は北部地区公民館版画教室で

そのかいあってか、版画教室は定員オーバーの大人気だ。「版画はね、彫る絵と刷り上がった絵が全然違います。彫るときは左右を逆にしなければなりません。鏡を見るようにね。刷ってもう一つの別の絵ができるんです」。

なるほど、鏡か、逆にか、別の絵か。血液型を聞けばAB型。「警察官のときはまじめなA型で、絵は遊び心のB型。対照的なんですよ」。

鏡をよく見ますかと聞くと恥ずかしそうによく見ると言う。確かに男前ではある。鏡の世界は、と聞いてみた。「あったらいいね」と答えた。やっぱり。左右対称の鏡の世界で、BA型の金子さんは左ハンドルのパトカーを運転したり、右左に注意して版画を彫っていたりしているに違いない。

（五十嵐広報担当記）

ほんの一冊

あのころはフリードリヒがいた
（岩波書店）
ハンス・ペーター・リヒター
（上田真而子 訳）

戦争という不幸な時代に生きたドイツ人の少年の目をとおして見た、ユダヤ人の友人の物語です。淡々とした文章の中にみずみずしく冷静な目が生きています。物語というより日記に近く、アンネの日記を思い出すかたもいるかもしれませんが、被害者のユダヤ人ではなく、ドイツ人の目をとおしていることが大きな違いです。

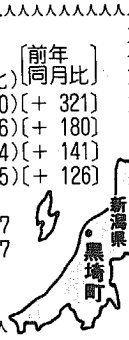
時代に流されてしまった良心あるドイツ人の姿も悲しみを持って描かれています。戦争、それは生々しい戦場だけではありません。日々の生活の中でどのように進んでいくのかを、抑制のきいた筆運びで適確にとらえています。深い悲しみが残る作品です。（紹介者：中山佳奈恵）

〈人の動き〉

10月末日現在（前月比）		〔前年同月比〕
人口	22,414（+20）	〔+321〕
男	11,020（+6）	〔+180〕
女	11,394（+14）	〔+141〕
世帯	5,844（+5）	〔+126〕

10月1日～末日

出生	20	転入	57
婚姻	8	転出	47
死亡	8		



今月号の表紙

表紙のかたのもう一言――阿部さん「雪が降ってからが大変です。暖冬だといいのですが」。三トン車を運転している横山さん「三トン車ですとなかなか入れない道が多くて困ります」。ドライバーの前田さん「うちにいるときはほとんどハンドルを握りません。休んでいます」。石原さんが抱いているのは娘の理笑ちゃん（2歳）「子供が道路でしか遊び場がないような町にはならないで。公園が必要です」。花が大好きな山際さん「町民一人が一本ずつ花を植えればとても美しい町になります」。山崎総一さん「道を舗装していちばん喜んでいるのは乳母車を使うばあちゃんだな」。

「この道を生かすみち」の特集は昨年に続いて二回目です。来年、再来年も「道」の記事を書くことになると思います。道を生かした町づくりはこれからが本番なのですから▼取材までしていただいてインタビューに臨まれた広報リポーター大谷さんの意見「道路が出来ると、自然が失われたり、騒音、震動問題が起きたり、企業が逆に出ていったり…。何かが出来ればその分何かを失うことになるのかもしれません。黒埼町は何を無くしてしまうのでしょうか。何も無くさないですむのかしら。それが気になります」▼黒埼町花と緑の会は実は編集子も設立（今年六月）以来のメンバーです。記事をつくることは記事を書くことに比べればはるかに大変です。「広報は表現ではなく実現である」とは編集子の持論。人手を求めています。花いっぱい運動にぜひご参加ください ▼文化祭の大インタビュー、黒埼祭り（九月号）以来二回目。もう二度とこんな企画はやるまいと思ったのですが…文化祭に行くとどうしても撮りたくなって…。たぶんまたやります。▼十一月に茨城県から広報の視察。役に立てたかどうかはわかりませんが、こちらはとても勉強になりました。感謝。▼今号も多くの町民の協力で広報が発行できます。イラストや写真、編集に興味のあるかたはご連絡ください。広報はみんなのものです。協力してくれませんか。

編集室

来月号の表紙

昭和六十二年を迎えて

あなたの抱負をどんどんお寄せください。